

令和6年度（2024年度）学校評価報告書

令和7年（2025年）3月31日

北海道教育委員会教育長 様

北海道函館西高等学校長 古御堂 徹

次のとおり令和6年度（2024年度）の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

○主語は「一人一人の生徒」
(1) 自分のよさや可能性を認識することができる生徒支援
(2) あらゆる他者を価値のある存在として尊重することができる生徒支援
(3) 多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切り開いていくことができる生徒支援

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	- 授業評価アンケートを導入したが、授業改善に向けた取組が一人ひとりの教員に任されており、組織的に授業力を向上させる取組となっていない。 - ICTを効果的に活用した授業改善が進んだ。しかし、スタディサプリの活用について、生徒の使用機会等から効果的に活用できていない。	- 教員は、授業改善をしていかなければならないが、目指すべき授業のあり方について、協議を積極的に深めて挑戦してほしい。 - 統合後の西高の歩み、取組は内外に一定の評価を得ており、教員の不断の努力の賜である。この歩みを止めないための開かれた体制づくりの継続を望む。
改善方策	- 教務部に研修係を設置し、教員が年間を通じて授業改善に取り組めるように伴走支援を行う。 - 教務部とキャリア支援部が横断的に校内研修を企画し、スタディサプリの効果的な活用法を模索する。	
生徒指導	- 寛容な生徒が多い中、一部生徒に他者を思いやれない行動がみられた。また、教員による指導・支援の年次差に課題がみられた。 - 生徒会執行部からの発信による「いじめ見逃しゼロ宣言」や、生徒が取り組んだ探究活動を活かした「デジタルシチズンシップ」の実施により、生徒がより自分事として捉える機会の創出となった。	- 生徒の一部に幼さを感じざるを得ない。この問題に対し、頭が下がるほど丁寧に向き合い指導する姿を垣間見る機会を得た。 - 生徒の心身の成長がコロナステイ3年を経て明らかに遅れていると考えられる。指導する教員にかかる負担の大きさにもっと着目すべきである。
改善方策	- 各年次主任及び副主任の定期的な打合せの実施により、年次間の指導の目線合わせを実施する。 - 次年度以降も各種教室において、生徒から発信する機会を創出する。	
進路指導	- 取り組んできた探究活動を活かして総合型選抜に臨み、結果を出す生徒が増えた。一方で、総合型選抜を希望しながら、これまでの活動実績が乏しく苦戦をする生徒も存在した。 - 保護者のキャリア観が生徒の進路選択に影響を与えている部分もみられる。	- 生徒の希望と保護者の理想のギャップを埋めるために保護者面談の充実を望む。 - 進路指導を通して、社会で生きる力を育成してほしい。また、学校教育活動を通して、生きる喜びと実感を得る体験の設定を望む。
改善方策	- 令和6年度3年次の取組や状況を学校全体に共有し、各年次へ引き継ぎを実施する。 2年次までに保護者の固定的なキャリア観を、保護者面談等を通じてほぐしていく。	
公表方法	- 教育活動の状況をWeb等を利用して情報発信する。 - 自己評価の結果を学校評議員に報告し、学校関係者評価を実施し、Webを活用して公表する。	

3 添付資料

- (1) 令和6年度(2024年度)北海道函館西高等学校 学校評価保護者アンケート集計結果
(2) 令和6年度(2024年度)北海道函館西高等学校 学校評価（自己評価・学校関係者評価）